

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 11 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870104720		
法人名	有限会社 ノリテック		
事業所名	グループホーム ひがし野		
所在地	松山市畑寺町丙68番地1 (電話) 089-914-5502		
管理者	高橋政美		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 11 月 6 日	評価確定日	平成 19 年 12 月 19 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 10 月 18 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 16.2 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 10 月 18 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護 1	5 名	要介護 2	6 名
要介護 3	3 名	要介護 4	3 名
要介護 5	名	要支援 2	1 名
年齢	平均 83 歳	最低 72 歳	最高 93 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者が地元で立ち上げたいと強く願って開設されたホームは、みかんや柿山が広がる美しく懐かしい自然環境の中に建てられている。地域との繋がりを深めるよう熱心に取り組み、地域の人々とホームが支えあう、まさしく地域密着型のグループホームとなっている。地域の方からの相談が多く、待機者のために何とか力になりたいとの思いから、10月中旬にデイサービスを開設させている。利用者の思いを大切に、一人ひとりに合ったペースで過ごせるよう、誠心誠意支援している。また利用者が活躍する場面を作るため、本人ができること、できないことを

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
 前回評価で、理念の掲示と成年後見制度の理解と活用の推進が挙げられている。ホームではこれらの課題に積極的に取り組み、玄関へ理念を掲示し、また成年後見制度の研修に参加し、理解した上でその活用について検討している。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
 ユニットごとに全職員で自己評価に取り組み、ホーム長、管理者、計画作成担当者がまとめている。その結果、「今後も地域の行事に積極的に参加していきたい」等、取り組みたい内容を明確にしている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
 ホーム側からは、理念、日々の取り組み、行事等について報告している。町内会からは地域行事のお知らせがあり、お祭りに手伝いに出かけたり、町内のボランティアから協力を得るなど積極的に交流している。地域包括支援センターからは、地域ケア会議や校区のグループホーム連絡会への参加を呼びかけられ、地域の同業者との交流やネットワークづくりにも役立っている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
 運営推進会議や家族会で意見を伝えてもらう機会を設けている。また、意見箱を玄関に置き、重要事項説明書に苦情の窓口を明記している。面会時には声をかけ、意見や要望を聞くようにしており、出された意見にはすぐに対応し、介護計画にも反映させている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
 地域への貢献が、地域から認められつながりを深めていく上で大切であるとの認識から、毎月、神社清掃を利用者と共に行っている。地域行事には利用者と楽しみながら参加しており、サマーフェスティバルには事前に盆踊りの練習をし、浴衣を着て参加している。現在は文化祭に出品するリースや俳句等の作品を制作中で、利用者の活動の場づくりにもなっている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームひがし野

(ユニット名)

なのはな(1F)

記入者(管理者)

氏名

高橋 政美

評価完了日

平成 19 年 10 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 理念『誠心誠意』 「1. 人のために社会のために、そして自分自身のために心から真心を尽くす。2. 人格を最大に尊重し、利用者の幸せな生活を提供することに努める。3. 職員同士が助け合いチームワークを大切にする。4. 常に自身の向上を惜しまない。5. 仕事に誇りを持ち喜びを感じながら従事する。」 (外部評価) 「誠心誠意」という理念を5つの柱に具体化している。その柱の1つ「人のために、社会のために、そして自分自身のために心から真心を尽くす」という理念に、地域の中で利用者がその人らしく暮らしていけるよう支援していくことをうたっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ・毎朝朝礼の際に、日勤者と共に唱和している。 ・月2回のカンファレンスの時にも唱和。 ・詰所、事務所の目に付くところに掲示している。 (外部評価) 毎朝及びカンファレンス時に唱和し、常に理念を意識するようにしている。さらに、カンファレンスで理念を議題に取り上げ、職員がグループに分かれて話し合い、具体化された5つの理念を一つ一つ掘り下げ、理念の実践に活かせるよう取り組んでいる。ある職員は「ケアの際、いつも利用者の立場に立って考えている」と力強く答えてくれた。	※	今までにも何回かは理念について話し合いをしたことがある。 今後も1年のうち何回か、カンファレンスにて『理念』についての話し合いを持ち、職員同士で共有し合う機会を設け、ケアの質の向上につなげたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) ・運営推進会議にて質疑応答。 ・入居される際に、ご家族に理念について説明している。 ・ホームページにて公開等、運営理念の啓発広報に取り組んでいる。	※	家族会開催時に、理念について浸透を図りたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所の人に笑顔で挨拶できている。近所で収穫された野菜等を届けてくれる。 時に、挨拶できていない職員がいれば、気軽に注意してくれる。	※	今後も同じように気軽に接して頂けるようにこちらからの声もかけていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事、お祭り、運動会、敬老会、サマーフェスティバルには地域の方からのお誘いもあるし、ホームからも問い合わせするなど、連携も取れている。 今年は、ホーム所属の組がお祭りの炊き出し当番で、朝から入居者様も含めて3人ほどで参加してお手伝いした。	※	今後も地域の行事に積極的に参加していきたい。
			(外部評価) 開設前から説明会を開き、地域の理解を得ている。町内清掃や毎月の神社清掃を利用者と一緒に行い、地域の人からも感謝されている。また、町内の行事であるお祭り、運動会、サマーフェスティバル、文化祭に、利用者と共に積極的に参加している。現在は文化祭に出品する作品を制作している。	※	これまで築いてきた地域との密接な関係が継続するよう今後の取り組みに期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 毎月、公民館のある神社境内の掃除や町内清掃には、スタッフと参加出来る入居者に出迎えていただき、少しでも地域に貢献できるように努めている。近所の高齢者がいつでも立ち寄れるよう声かけにも努めている。	※	近所の認知症高齢者の方が、時々遊びに来られる。どなたでも気軽に来られるよう、地域のお年寄りの話し相手や相談相手になれるよう努めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を全スタッフ、ホーム全体で取り組んでいる。経営者がホーム長で全体の把握をしている。外部評価の結果を家族、面会者、入居者に自由に閲覧して頂けるよう、玄関に置いている。改善が必要な時は早急に検討し、改善につとめている。	※	利用者さんの満足度の高いホームにしていけるよう全スタッフで意見を出し合い改善していきたい。
			(外部評価) 評価の意義を理解し、ユニットごとに全職員で自己評価に取り組み、ホーム長、管理者、計画作成担当者でまとめている。前回評価を活かして、理念を玄関に掲示し、成年後見制度の研修に参加し、伝達講習している。評価項目が変更されてから初めての評価であるため、全ての項目についての理解は今後の課題である。	※	各項目の評価のねらいを理解することはサービスの質の向上のためには不可欠であり、全職員が理解できるよう、職員の意識統一のためまずホームが取り組みたいと考えている項目から取りかかることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヵ月に1度の運営推進委員会を開催している。参加依頼者は、民生委員、町内会長、副会長、分館長、老人会長、包括センター、市介護保険課、家族、入居者、スタッフ等で自己紹介、行事報告、試みていること、地域の行事等の情報交換や意見交換し、ニーズを拾い出しサービスに反映している。 (外部評価) 平成18年7月より、町内会長はじめ地域の方の多くの参加を得て、ホームの理念、取り組み、行事等を報告し、参加者と意見交換している。家族にも順番に参加を勧めている。町内会から地域行事の日程を知らせてもらい、地域包括支援センターからは地域ケア会議や校区のグループホーム連絡会への参加を依頼されている。	※	地域の学校関係者への参加依頼をお願いしたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 松山市介護保険課、社会協議会の勉強会の会場を提供したり、ボランティアの受入等を協力している。 (外部評価) 市社会福祉協議会のボランティア受け入れ施設になっており、毎週3~4人に行事等で協力を得ている。また、市担当課等の勉強会の会場としてデイサービス棟を提供している。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 家族会に成年後見制度について説明し、意見交換をした。 必要が発生した時は、気軽に相談に応じることができる旨、説明した。	※	スタッフ全体の勉強を早期に実施の予定にしている。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされないことがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体的虐待のみでなく、精神的虐待にも留意ができるようスタッフ間で話し合いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、契約書の説明を詳細にすると同時に、家族、利用者の質問、疑問に思っている事について、十分に説明している。	※	契約前には、他の施設の見学を勧め、家族、利用者が納得した上で契約している。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関先に、意見箱を設置し意見、苦情を拾い出している。意見、苦情はカンファレンス時、スタッフで話し合い検討している。 又、家族会での意見を参考に運営に反映している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) ホームページを開き、インターネットでいつでもホームの様子を自由にみることができる。 毎月ひがし野便りを発行し、家族へ郵送している。 年に1度健康診断を実施し、その結果を家族に報告している。金銭出納は小使い帳をコピーし、郵送している。 <hr/> (外部評価) 利用者の暮らしぶりを写真に撮り、ホームページに掲載している。更新も頻繁に行われており、特に面会に来られない遠方の家族に、ホームの様子がよく分かると喜ばれている。また、面会時にも暮らしぶりや健康状態について報告している。さらに、普段の生活や行事の写真を載せたホーム便りを毎月郵送している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヵ月に1度の運営推進委員会、年に2回の家族会で意見交換の場を設けている。その他行事、面会で来所された時、要望を聴き、早期に検討し、対応している。 <hr/> (外部評価) 運営推進会議や家族会で意見を伝えてもらう機会を設けている。玄関に意見箱を置き、重要事項説明書に苦情の窓口を明記している。面会時には声をかけ、意見や要望を聞くように努めており、すぐ対応できる事柄には即対応している。また、介護計画の見直しにも役立てている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃の業務で気づいた事等を、意見ノートに記入しそれをカンファレンスの時、スタッフで話し合い、より良い方法を模索している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 新入居者の状態により、例えば環境に慣れず、不穏な言動があり落ち着かない場合は、スタッフが居残り対応している。 外食、外出、行事等で人手が必要な時は、職員の配置をしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員のフロー移動は、1度に複数人の交代はしないようにして、馴染みの関係がとぎれないように留意している。利用者の心理的なことも考慮しながら、職員の配置をしている。 (外部評価) ユニットごとの外出の際に外出しない利用者がホームに残って別ユニットで過ごすこともあり、顔見知りの職員がいることが安心に繋がるため、半期に一度、少しずつ異動させている。異動による利用者へのダメージを考慮し、人数等に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 雇用の初め、1週間程度、研修期間にあてている。当ホームのマニュアルを説明しながら、実際の業務の実施をしている。外部研修への参加については、順番に参加できるよう留意している。又資格条件が整えば、なるべく資格が取得できるよう講習会等にも出席できるようにしている。 (外部評価) 2か月に1回、外部から講師を招き、薬、接遇等の研修を受けている。介護福祉士等の資格取得のための勉強会も開いている。県グループホーム連絡協議会や県社会福祉協議会主催の研修にも順番で参加し、ホームで報告会を開き、他の職員に伝達講習している。研修参加のための費用の援助もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域、近所のグループホームで相互評価に参画し交流を図っている。1日お互いのホームで研修する事で、良いと思われることをとりいれている。 (外部評価) 県グループホーム連絡協議会主催の相互評価に参加している。他のグループホームで実践していたカレンダー作りを取り入れ、利用者一人ひとりが自分らしく作ったカレンダーを居室前に飾っている。また、校区のグループホーム連絡会に出席し、地域の同業者との繋がりもでき、情報交換等している。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) その人のライフスタイルに合わせた、休み希望を聞き入れてもらっている。 運営者はスタッフが常に働きやすい職場になるよう一人ひとりの相談にのっている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 社協、介護保険課、グループホーム協会主催の研修には、希望者を優先に参加できるように、勤務体制を調整している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前の、相談時から利用者本人、家族の不安や、要望をしっかりと聞き取り、どのように対応すると満足していただけるか十分に検討している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前の、相談時から、家族の不安や、要望をしっかりと聞き取り、どのように対応すると満足していただけるか十分に検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人又は家族のニーズをしっかりと傾聴し、家族の介護負担も含めた、サービス支援を助言したり、又、在宅や施設はの転居の必要性も検討している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居希望があったら、家族と一緒に見学に来所してもらい、2～3回ホームにこられ、おやつや食事を食べて頂き、少しずつ慣れていただくケースもある。 <hr/> (外部評価) 入居希望の本人と家族が見学に来て、ホームの様子を把握し、ホーム側からも本人の自宅を訪問し、暮らしぶりや生活環境を把握し、希望を聞いている。入居後は、家族にも協力を得て度々来てもらっている。帰宅願望のある方と一緒に外に出て散歩し、「ただいま」と声をかけると、ホーム内の人が「おかえり」と温かく迎えている。	※	10月にオープンしたデイサービスを、ホームの待機者も利用している。ホームとデイサービスの連携により、待機者が入居までに職員や他の利用者及びホームの雰囲気に慣れ、スムーズにサービスが開始されることを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 食事の献立を一緒に考えたり、調理方法を教えてもらったりすることもある。 行事については、お正月のしめ縄の作り方を教わったりしている。童謡、唱歌を教わりながら、一緒に歌ったりしている。 <hr/> (外部評価) 利用者には全員役割があり、職員は手伝ってもらっている間のコミュニケーションを大切にしている。そして、手伝いに対し「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えている。利用者が孫の写真を見ながら嬉しそうに話をする時、職員も同じように嬉しくなるという話を聞いた。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 常に利用者同士の言動に気を配り、関係を把握している。又、トラブルは未然に防ぐ事が出来るよう努力している。 もし、トラブル時は、スタッフが間に入り、皆さんが気持ち良く過ごせるよう留意している。レク、体操等と一緒にする事で皆さん一緒に楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族には、何時でも来訪してもらえるよう、早朝の面会もオープンにしている。宿泊設備も整っており、遠方からの面会にも対応している。面会にきた家族の事を忘れた場面が見られたら、助言する事で思い出すことのできることで関係作りが保つことをはかっている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 買物、外出等で利用者の家の近くを通ったり、思い出の場所を選んで出かける。古い写真を一緒に見たり、若い時の話を聴くようにしている。 入居時は在宅で使用していた馴染み家具、日用品を持参してもらっている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 常に利用者同士の言動に気を配り、関係を把握している。トラブルは未然に防ぐ事が出来るよう努力している。もしトラブル時は、スタッフが間に入り、皆さんが気持ち良く過ごせるよう留意している。レク、体操等を一緒にする事で皆さん一緒に楽しんでいる。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所された方にも、運動会等の行事への参加を案内し遊びに来てもらっている。 家族の都合で在宅で一人になる時は、来所してもらいおやつや、食事を一緒に食べてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりに要望、希望を聞き、本人にとって強制にならないような生活リズムで生きがいのある生活できるよう努めている。 (外部評価) 職員は利用者と接する時間を多くもち、会話しながら手伝ってもらおう等工夫して、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。希望の表出の困難な方に対しては、本人の立場で考慮している。把握した内容は申し送りノートや個人記録に記入し、職員間で共有している。さらに各利用者の担当者が毎月アセスメントシートに蓄積している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居される前に、住み慣れた家を訪問してご家族も交えて生活歴等を聞くようにしている。そして入居される際には、今まで使っていた家具やお仏壇等、馴染みのある物を一緒に持ってきていただき、今までと変わりにくく過ごしていただけるような生活環境づくりに努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 毎日決まった時間にバイタル測定をし、いつもと変わったことが見られるときには、看護師に報告し、協力医に連絡する事で指示をうけている。日常生活の中で、出来る事、出来ない事を見極めて、できる事を役割として支援している。生活記録の中で日々の過ごし方を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 月2回の会議に、スタッフが1階、2階に分かれケアカンファレンスを3ヵ月に1度話し合いをしながら介護計画の見直ししている。モニタリングし、本人、家族の意向を反映しながら次のプランに繋げている。 (外部評価) 日頃から本人や家族の思いや意向の把握に努め、希望を取り入れた介護計画を作成している。毎月モニタリングし、月2回のカンファレンスで職員全員で意見を出し合っている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 定期的には3ヵ月に1度の見直しをしている。しかし、状態の変化が著明な時や、入院後の日常生活動作の相違が生じた時は、プランの見直しをし、本人、家族の同意を得ている。 (外部評価) 毎月のモニタリングによるアセスメントを基に、3か月に1回定期的に介護計画を見直ししている。病気による身体機能の変化等、状態変化が生じた場合はその都度見直ししている。その際、本人や家族に説明し、同意を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の対応の様子(対応困難時など)、状態の変化があった時は必ず詳細に記録するようにしている。介護計画に対する記録を心掛けるようにしている。又、気づきやアセスメントも記録に残すようにしている。記録をもとに共有し、実践に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 面会時間は早朝や遅い時間にも対応している。外出、外泊についても家族や本人の都合に合わせて、いつでも良い時間にも関わっている。 本人がドライブや買物に行きたいと希望される時は、なるべく意思を尊重している。 (外部評価) 医療連携体制を活かし、月1回往診が受けられる体制を作っている。入院時も早期退院の支援をしており、家族の都合が悪い時には通院介助もしている。元利用者や近くの認知症の高齢者に自由に遊びに来てもらっている。地域のニーズに応じてデイサービスを開始している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域の中学生の職場体験、専門学生のボランティアの受入をしている。 本人の必要性の訴えがないため支援には至っていない。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 当ホームで医療面で対応が困難になった方を紹介したり、認知面で在宅生活が困難なケースをケアマネジャーをどうして紹介されたりしている。在宅に復帰する時などは、居宅支援事業所に繋いでいる。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域で生活している高齢者の情報の交換をしながら、必要があれば、総合的なマネジメントの相談を考えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、家族の許可を得て、協力病院から往診（内科、皮膚科、歯科）にきてもらっている。他科への受診は必要に応じてスタッフと一緒に通院することもある。 (外部評価) 本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、入居前からのかかりつけ医の方もいれば、ホームの協力医がかかりつけ医の方もいる。通院介助は家族と本人のコミュニケーションの場にもなるため、基本的に家族にお願いしているが、家族の都合で職員が代行する場合もある。協力医の往診が週2回ある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症の理解が十分にできている医療機関に受診し、周辺症状が悪化した場合にも助言や内服薬の処方をしてもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ホームに勤務する看護職員を含めて、検討し必要時には、症状に合った医療機関の受診につないでいることもある。排便状態を観察するなどして緩下剤の服用に対して、適切な量をけん討している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 協力病院、又は救急病院に入院時には、密に連絡を取り、病状の経過、退院の時期を相談しながら、出来るだけ早く再入居できるよう対応している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) グループホームでの対応が困難になった場合、早期に家族と話し合いを持ち本人にとって安心して過ごせる施設に、移行していただくよう話し合いをしている。 (外部評価) 入居時に重度化や終末期のあり方について本人や家族と話し合い、方針を決めている。重度化に伴い、話し合いを重ね、意向の確認をしている。ホームでの生活を望む方にはできる限りホームで支援している。ホームでの対応が困難な医療行為を要する場合は、利用者のために最善の方法を検討し、病院や老人保健施設への退居の支援もしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 終末期を当ホームで迎えるか、又は他施設、病院での生活に切り替えるかは、ご家族とご本人(意思疎通可能な場合)から要望を聞いている。医療依存度が高くなった場合はかかりつけ医と十分に連携を取り受け入れている。 常に、『グループホームとしての終末期の支援とは』との課題の検討を考えることに努めている。	※	経管栄養(胃瘻部より)は、必要があれば受け入れている。 疼痛緩和ケアが必要な場合は受け入れたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) サマリーを速やかに作成して渡す、行って状態を直接伝える等、次の住居に行く時は情報提供を十分出来るようにしている。 住み替え後も、関係者で情報交換してご本人がスムーズに住み慣れるように努めている。	※	住み替え後も、慣れるまでは定期的に情報交換するなど取り組んで行きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者の記録に、他の利用者の事を書く時はイニシアルで対応している。言葉かけは、尊敬の念を持って声をかけるように努めている。	※	カンファレンスで、プライドを傷つけない言葉掛けやプライバシーの取り扱いについて定期的に周知を努めたい。
			(外部評価) ホームでは理念の2つめの柱に挙げ、熱心に取り組んでいる。利用者が穏やかに過ごせるよう、命令や強制になつたり、禁止したりしないような声かけについてカンファレンス時に議題に取り上げ、職員間で意識統一している。ホームページやホーム便りに利用者の写真を掲載することは、全ての利用者の家族から同意を得ている。	※	今後も定期的にプライドを損ねない言葉かけ等の話し合いをして、プライバシーの確保を徹底していきたいと考えているため、今後の取り組みに期待する。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 更衣であれば、自分で用意して着ることが出来ない方には、何点か洋服を用意して「どちらにしますか？」と選んで頂いている。お茶の時間、外食時にも希望を聞き、好みのものを選べるようにしている。 外出・外食は、どうしても行きたくないと訴える時は「いいですよ」と希望を受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 電話、外出、買物など一人ひとりの希望を大切に、それに沿えるよう努力している。 おやつ、入浴、更衣、昼寝等その人のペースを大切にしている。 (外部評価) 昼食前にベランダでタバコを吸いながら景色を楽しむ、面会に来た家族と話す、ソファに座って話す、昼食後早速食器洗いを、ゆっくり食事する、テレビを観る、居室で休む、など一人ひとりが思い思いの過ごし方をしている。ホームが日頃から利用者の希望に沿う支援に尽力している様子がうかがえる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 朝の更衣時、入浴時、外出時、汚れた時など気をつけてその人らしい身だしなみができるよう支援している。 近所の美容院が毎月1回訪問している。希望者にカットを提供している。又、カラーパーマ等したい方については、美容院にお連れしている。馴染みの理容・美容店に行きたい方にはその支援をしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日、利用者の方と一緒にコミュニケーションをとりながら食事作りをし、食べたい物や好みも大切に楽しく美味しく食事ができるよう支援している。 片付けは、利用者の方も進んでしている。洗うことが難しい方も座ってトレイ拭き等、できるお手伝いをしている。 (外部評価) 毎日利用者と共に買い物に出かけ、利用者の食べたいものを献立に取り入れている。魚を魚屋から購入するなど、新鮮な食材を使い、食事の準備や後片付けを利用者と職員と一緒にしている。また、お粥、パン、ご飯と希望に合う主食を提供している。外食や喫茶店へ出かけることも多く、楽しみの一つとなっている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物は、本人の好みに沿える様にしている。 お酒を飲みたい方には、健康状態を配慮しながら希望通り支援している。 タバコは、詰所で管理はしているが、本人が自由に取って喫煙場所にいけるよう支援している。	※	タバコの本数が多くなるようなら、さりげなく声かけをしている。 外食時にもビール等を注文されることもあるが、少しなら見守っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 紙パンツを使用していた方の排泄パターンや状況を見て、布パンツに切り替えられそうな方は布パンツに変えることができた。 布パンツだけでは不安な方にはパットを使っていたいただき、出来るだけ布パンツで過ごせるよう支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの入浴希望時間を聞くようにしている。毎日入浴される方、一日おきの方等ニーズに合わせている。365日入浴の支援をしている。 肌の保湿保温効果のある入浴剤を入れて、入浴後も気持ちよく過ごせるよう支援している。 (外部評価) 入浴回数や時間は一人ひとりのこれまでの生活習慣や希望に合わせているため、毎日入浴する人もいれば、1日おきの人、午前中に入る人、夕方の人と様々である。感染症等で湯船に浸かれない時も、シャワー浴の設備がある。	※	なるべく希望に沿った通りに入浴していただく。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 昼食後には、居室で横になれるよう支援している。また、お手伝いを頑張りがすぎている際には「少し休みませんか？」と声かけするようにしている。 入居者によっては、眠剤を多量に要求する方もいるので、その際には擬似薬で「これで眠れますよ」と安心できる声かけをするようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) ご家族、ご本人にアセスメントし、その方の生活歴を把握して、介護計画を立てている。 介護計画の中に、役割や趣味などを取り入れて、楽しみが実行できるように支援している。又、全体的には季節の行事を取り入れて支援している。 (外部評価) 掃除の場面では、車いすの方には手摺りの拭き掃除、杖の必要な方には洗面所の掃除をしてもらおう等、利用者のできること、できないことを職員が見極め、できることをしてもらい、お礼を言うようにしている。また、梅干作り等利用者の経験を活かせる場面を作っている。編み物、習字、俳句等の趣味、地域行事への参加、外食、外出等の楽しみも多い。	※	レクリエーションのレパトリーを増やして、今より内容のあるレクリエーションをしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小額のお金を管理していただき、買物に行ったり、ヤクルト来たら各自で購入できるようにするなど、お金を使う楽しさを味わえるように努めている。	※	今は限られた人なので、お金を使える方を増やしていきたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) お正月以外は毎日、買物の機会を作っている。又それ以外にも一人ひとりの希望に沿って、買物、ドライブ、散歩等、訴えのあった都度、戸外に出られるように努めている。 (外部評価) 毎日食事の買い物に利用者とは出かけている。ホームの前の道は、みかんや柿山が広がる細い一本道で、のどかな風景を楽しみながらの散歩コースとなっている。また、希望に応じて買い物やドライブにも出かけている。広い庭に置かれたベンチやブランコも活用している。行事による外出も多い。	※	訴えのある方にだけの対応になりがちなので、普段より利用者の方に話を聞き、行きたい所等があれば希望が叶えられるようにしたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族同伴での遠距離バス旅行、デパートやレストランでの外食、美術館等さまざまな場所に出掛けられる機会を作っている。	※	外出可能な（スムーズにいける）所の下見をしてレパトリーを増やしたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家庭の事情で出来ない場合もあるが、訴えがあれば電話をかけられるように支援をしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問時間の規定はなく、いつでも、どなたでも訪問できるようにしている。 お茶を一緒に飲んでいただいたり、レクリエーションに参加していただいたり、他の入居者との交流も自然な流れでできている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 介護保険法指定基準の資料を基に、カンファレンスで学習した。どんなことが身体拘束になるのか具体的に意見交換等もしながら全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	※	定期的に職員同士が身体拘束についての話し合いを持てるようにする。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外玄関には、用心の為に鍵をかけているが入居者の方全員に鍵の開け方を教えている。入居者の方が外に出たい時には、自由に鍵を開けて出れるようにしている。中庭からも自由に出入りしている。居室には鍵を付けていない。 (外部評価) 外玄関は防犯のため施錠しているが、利用者には鍵の開け方を伝えており、自由に出入りできる。利用者の外出傾向を把握し、内玄関のセンサーと、鍵を開ける音で外出を察知し、見守りにより安全に留意している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) スタッフは、常時一人はフロアーに居るようにしている、スタッフ同士声掛けして行動している。個室に入室する時は必ずノックして、声かけしている。	※	夜間ローカの明かりをつけている。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 洗剤類、消毒類等は一箇所にまとめ保管しているが、鍵はかけていない、包丁や台所洗剤等も自然な形で収納している。鍵は掛けていないが、スタッフが見守りする事で安全に過ごしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハットや、事故報告書を活用し、小さな事でも必ず報告、カンファ時に話し合っどどのようにして行くか、気を付けて行くか検討し、同じ事が起きないように努めている。火災については、年2回入居者、スタッフ全員で防火訓練、スタッフは定期的に防火訓練を行っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 地域で実施している救命訓練にスタッフが参加し、人工呼吸法、AD使用方法を身につけている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練、初期消火、通報訓練を消防署と連携をとりながら、年に1～2回実施、又ホーム独自でも訓練を近所の住民に協力依頼しながら取り組んでいる。 (外部評価) 年2回消防署の指導のもと避難訓練を実施しており、職員は各ユニットにあるマニュアルに沿って行動できるようにしている。また、町内の自主防災訓練にも参加している。ホーム独自でも、夜間を想定して電話連絡がスムーズにできるよう訓練している。避難場所の中学校へは、日常の散歩コースとなっているため利用者も慣れている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 身体の状態や、認知レベルの低下により状態が変わった時や、熱が出た時等も必ず連絡を入れて報告している。状況が変わった時には、一緒に話し合いどのような方向で生活して頂きたいかを聞き、意向もお聞きして本人さんが一番良い状態で生活が送れるように取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 1日1度はバイタルチェックをし、血圧等の異常データの把握をしている。体熱感が観察された場合は検温をし、クーリングの様子をみることもある。受診の必要があるかどうかを看護職が見極めをしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の薬効や副作用の記録をいつでも見て確認できるようにしている。服薬の確認は必ずしている。血糖値の測定をし、低目の時は指示どおり、薬を中止する時もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便の確認をし3~4日なければ緩下剤を服用する場合もある便秘気味の人にはヨーグルトを提供したり、水分補給にも留意している。	※	繊維質の物を日々のメニューに取り入れたり、便秘改善の体操を日常的に取り入れるなど、場当たりの対応でなく普段の生活から便秘を予防する働きかけを行いたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔の徹底と夜間の義歯洗浄の推進、歯科医師及び歯科衛生士による歯科受診、口腔指導、メンテナンスをしている。	※	歯茎のマッサージ等口内環境の一步進んだ改善に取り組んでいきたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量のチェックし管理している。青魚が嫌いな方には、食べれる物を作り提供している。水分量の少ない方には毎回味が変わったジュース等を飲んでもらい必要量の確保をしている。 (外部評価) 食品数を30品目近くになるようにし、糖尿病の方へもカロリー摂取に配慮している。食事量、水分量を記録し、一日に必要な量を確保できるよう支援している。ホームでは家庭的な雰囲気を大切にしているため、家庭と同じような食事の提供をしている。そのため、献立は一食ごとに立てている。	※	好き嫌いの激しい方の場合は、食事量をおかず別に分けてチェックして本人の嗜好を正確に把握する。 ホームの栄養士が一日全体を通しての栄養摂取量やバランスを定期的に専門的な目で確認することが望ましい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 入居者、スタッフは外出から帰った時には必ず手洗い・うがいの励行をしている。食事前にも必ず手洗いの声掛けをして日頃から感染予防に努めている。又インフルエンザの予防接種を入居者、スタッフもほぼ全員実施している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食器や調理器具は洗った後、乾燥機使用し綺麗に乾燥してから終わっている。一日使ったまな板や、布巾・包丁はハイターにつけている。食材は毎日買出しに行き新鮮な物を提供できるようにしている。賞味期限の切れている物については、処分している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関は、スロープにして手すりも付けている。今年は認知症デイの開設もあり、外回りの雰囲気を外部からも入りやすく入居者の方にもくつろげるよう花や木を沢山植え池もあり、めだかや、金魚を観て楽しめるか環境作りをしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関や、食堂には庭に咲いている花を摘んで生けている。日差しがきつい時にはレースのカーテンを引き入居者様の不愉快にならないように配慮している。浴室には小窓にして外からは見えない工夫をしている。 (外部評価) 玄関は、広々としており、花や日本人形を飾り、いすを置いて休めるようにしている。廊下は広く、車いすも通りやすい。布で作ったカレンダーが食堂を明るく雰囲気にしており、居間はソファでゆったりくつろげるようにしている。トイレの中に扉で仕切ったシャワー室があり、必要のない時には見えないようにできるため感じがよい。	※	芳香剤を置いたり、御香を取り入れて行ったらどうかと検討していきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人掛けのソファ、三人掛けのソファを置いている。玄関を入った所にも一人掛け椅子を置いたり、二階の踊場にはテーブルと椅子を置いて何時でも座れる場所を作っている、タバコを吸われる方もゆっくりと過ごす事ができるように、椅子を置いている。	※	建て物の廻りなども、腰掛られる物を置いて行きたいと考えている。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室の家具は、自宅で使用された馴染みのものを持って来て頂き、本人が過ごされていた時と同じような空間作りをしている。タンスや椅子も使って居た物、使い慣れたものを置いている。お仏壇も持って来て頂き手を合わす事で安心して過ごせる空間作りをしている。 (外部評価) 使い慣れた箆笥や机・いすを持ち込み、その人らしい居室になっている。編み物をする方は毛糸で編んだ花や座布団を置いている。入居前布団で寝ていた方はフロアに畳を敷いて休んでいる。仏壇を置いている方はきれいにお供えもしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 冬場は床暖房の設備により暖かく、夏期はなるべく窓を開ける事で換気と、室内温度の調整気温が高い時には、空調を28度に設定し外気温との差を少なくしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ホーム全体がバリアフリーになっており、車椅子使用の方もトイレ・風呂場への移動も自由に行く事ができる。手すりを利用し立ち上がり訓練をし筋力アップに繋がっている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室のドアには、本人様の名前の表札を掲げトイレにはトイレ(御手洗)プレート、風呂場にはお風呂のプレートや、(湯)のれんを吊り分り易くしている。ローカ、台所、居間は一目で全体が見渡せるよう配慮している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物のすぐ側にはみかん畑があり、中庭は芝生を敷き詰めパーゴラや二人乗りのブランコもあり楽しんで頂ける空間作りをしている。木や草花も多く庭の花を摘んで生けてもらったりしている。バラのアーチもあり目で観て楽しんで頂ける工夫をしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	タバコを吸われる方、毎朝朝食は食パンを食べられる方、夜は焼酎等具体的に意向を掴んでいる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	のんびり一緒に洗濯物干したり、数名の入居者と集まってお茶を飲みながら食事のメニューを決めたりしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	レクリエーション、外出、行事の場合でも、その都度本人に参加の意向を確認した上で無理のないようお誘いしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	掃除、食事作り、洗濯干し・たたみ等や散歩時その方の出来る事をして頂いた時、生き生きとした表情や、笑顔がみられる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人で玄関から出られ、ホームの近所を散歩されたり、ドライブに行きたい、買物に行きたいとの要望をされた時は、その都度出かけている。その時にお聞きして他の入居者の方もお誘いして出かけている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	定期的な往診、毎朝のバイタルチェックをしている、熱が37℃以上の時には再度測定している。血圧では上が140以上の時にも再度測定して、日頃と違う時や変わった事がある時には、すぐに看護師に連絡指示をもらう。看護師が勤務でない時には往診に来て頂いてる病院に連絡看護師、Drの指示をもらう。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	朝は自分で起きられる方以外は、7時に声掛けをしているが眠たいと言われる方や声を掛けて起きられない方はしばらく休んで頂いている。夜も就寝時間は決まっていないが9時までには休まれている。眠れないと起きて来られる方にはリビングでテレビを見て頂いたり、温かい飲み物を飲んで頂き安心して暮らすようになっている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	行事や、面会時にホームでの生活や状況等報告している。更新時には家族様の意向、本人様にどのように過ごして欲しいか聞き、ケアプランに反映させている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	地域の方が来られたり、近くの方で散歩の途中一度ホームに寄られてから、数日に一回ホームに寄りお茶を飲んで入居者の方と話をしている方がいる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議を2ヶ月に1度開催して、毎回地域の方が数名参加して頂きスタッフも順番に出席して地域の方と顔なじみになって、近所の方に声をかけられるようになり近所の方からお野菜を頂いたりしている。回覧板も必ずまわしていただいている。月に一度地域の神社の掃除に出かけ、地域に貢献できるような場を作り地域の方と馴染めるようにしている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎朝、日勤帯の人が順番で朝礼に出て、理念の唱和、連絡事項、職場の教養・感想、挨拶リーダーを決め笑顔で挨拶をして、一日のスタートを切っている。業務で困ったことや、対応などで考え過ぎて負担を抱えているスタッフがいる時には、時間外に話を十分に聞き、ストレス等をためないように話を聴く体制を取っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	行事や、外出、レク、入浴等は必ず本人さんの希望や自己決定が出来るように支援している。手伝い等も声かけして出来る事をして頂いている、本人の意思を確認しながら無理のないようにして頂いている。買物や散歩も毎日順番で行ける体制を作っている。ドライブに行きたいと言われる方もその都度、車の融通が利く限り希望に添えている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会に来られた時や、家族会に来られた時に話をして希望や、意向や気づいた事がある時にはお聞きして、介護計画書に記録して次のケアプランに反映させている。状態が変わった時には必ず報告してどのように対応して行くか話し合っている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームひがし野

(ユニット名) こすもす(2F)

記入者(管理者)
氏名 高橋 政美

評価完了日 平成 19 年 10 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 理念『誠心誠意』 「1. 人のために社会のために、そして自分自身のために心から真心を尽くす。2. 人格を最大に尊重し、利用者の幸せな生活を提供することに努める。3. 職員同士が助け合いチームワークを大切にする。4. 常に自身の向上を惜しまない。5. 仕事に誇りを持ち喜びを感じながら従事する。」 (外部評価) 「誠心誠意」という理念を5つの柱に具体化している。その柱の1つ「人のために、社会のために、そして自分自身のために心から真心を尽くす」という理念に、地域の中で利用者がその人らしく暮らしていけるよう支援していくことをうたっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ・毎朝朝礼の際に、日勤者と共に唱和している。 ・月2回のカンファレンスの時にも唱和。 ・詰所、事務所の目に付くところに掲示している。 (外部評価) 毎朝及びカンファレンス時に唱和し、常に理念を意識するようになっている。さらに、カンファレンスで理念を議題に取り上げ、職員がグループに分かれて話し合い、具体化された5つの理念を一つ一つ掘り下げ、理念の実践に活かせるよう取り組んでいる。ある職員は「ケアの際、いつも利用者の立場に立って考えている」と力強く答えてくれた。	※	今までも何回かは理念について話し合いをしたことがある。 今後も1年のうち何回か、カンファレンスにて『理念』についての話し合いを持ち、職員同士で共有し合う機会を設け、ケアの質の向上につなげたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ・運営推進会議にて質疑応答。 ・入居される際に、ご家族に理念について説明している。 ・ホームページにて公開等、運営理念の啓発広報に取り組んでいる。	※	家族会開催時に、理念について浸透を図りたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所の人に笑顔で挨拶できている。近所で収穫された野菜等を届けてくれる。 時に、挨拶できていない職員がいれば、気軽に注意してくれる。	※	今後も同じように気軽に接して頂けるようにこちらからの声もかけていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事、お祭り、運動会、敬老会、サマーフェスティバルには地域の方からのお誘いもあるし、ホームからも問い合わせするなど、連携も取れている。 今年は、ホーム所属の組がお祭りの炊き出し当番で、朝から入居者様も含めて3人ほどで参加してお手伝いした。 (外部評価) 開設前から説明会を開き、地域の理解を得ている。町内清掃や毎月の神社清掃を利用者と一緒に行い、地域の人からも感謝されている。また、町内の行事であるお祭り、運動会、サマーフェスティバル、文化祭に、利用者と共に積極的に参加している。現在は文化祭に出品する作品を制作している。	※	今後も地域の行事に積極的に参加していきたい。 これまで築いてきた地域との密接な関係が継続するよう今後の取り組みに期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 毎月、公民館のある神社境内の掃除や町内清掃には、スタッフと参加出来る入居者に出迎えていただき、少しでも地域に貢献できるように努めている。近所の高齢者がいつでも立ち寄れるよう声かけにも努めている。	※	近所の認知症高齢者の方が、時々遊びに来られる。どなたでも気軽に来られるよう、地域のお年寄りの話し相手や相談相手になれるよう努めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を全スタッフ、ホーム全体で取り組んでいる。経営者がホーム長で全体の把握をしている。外部評価の結果を家族、面会者、入居者に自由に閲覧して頂けるよう、玄関に置いている。改善が必要な時は早急に検討し、改善につとめている。 (外部評価) 評価の意義を理解し、ユニットごとに全職員で自己評価に取り組み、ホーム長、管理者、計画作成担当者でまとめている。前回評価を活かして、理念を玄関に掲示し、成年後見制度の研修に参加し、伝達講習している。評価項目が変更されてから初めての評価であるため、全ての項目についての理解は今後の課題である。	※	利用者さんの満足度の高いホームにしていけるよう全スタッフで意見を出し合い改善していきたい。 各項目の評価のねらいを理解することはサービスの質の向上のためには不可欠であり、全職員が理解できるよう、職員の意識統一のためまずホームが取り組みたいと考えている項目から取りかかることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヵ月に1度の運営推進委員会を開催している。参加依頼者は、民生委員、町内会長、副会長、分館長、老人会長、包括センター、市介護保険課、家族、入居者、スタッフ等で自己紹介、行事報告、試みていること、地域の行事等の情報交換や意見交換し、ニーズを拾い出しサービスに反映している。 <hr/> (外部評価) 平成18年7月より、町内会長はじめ地域の方の多くの参加を得て、ホームの理念、取り組み、行事等を報告し、参加者と意見交換している。家族にも順番に参加を勧めている。町内会から地域行事の日程を知らせてもらい、地域包括支援センターからは地域ケア会議や校区のグループホーム連絡会への参加を依頼されている。	※	地域の学校関係者への参加依頼をお願いしたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 松山市介護保険課、社会協議会の勉強会の会場を提供したり、ボランティアの受入等を協力している。 <hr/> (外部評価) 市社会福祉協議会のボランティア受け入れ施設になっており、毎週3~4人に行事等で協力を得ている。また、市担当課等の勉強会の会場としてデイサービス棟を提供している。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 家族会に成年後見制度について説明し、意見交換をした。必要が発生した時は、気軽に相談に応じることができる旨、説明した。	※	スタッフ全体の勉強を早期に実施の予定にしている。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体的虐待のみでなく、精神的虐待にも留意ができるようスタッフ間で話し合いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、契約書の説明を詳細にすると同時に、家族、利用者の質問、疑問に思っている事について、十分に説明している。	※	契約前には、他の施設の見学を勧め、家族、利用者が納得した上で契約している。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関先に、意見箱を設置し意見、苦情を拾い出している。意見、苦情はカンファレンス時、スタッフで話し合い検討している。 又、家族会での意見を参考に運営に反映している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ホームページを開き、インターネットでいつでもホームの様子を自由にみることができる。 毎月ひがし野便りを発行し、家族へ郵送している。 年に1度健康診断を実施し、その結果を家族に報告している。金銭出納は小使い帳をコピーし、郵送している。 (外部評価) 利用者の暮らしぶりを写真に撮り、ホームページに掲載している。更新も頻繁に行われており、特に面会に来られない遠方の家族に、ホームの様子がよく分かると喜ばれている。また、面会時にも暮らしぶりや健康状態について報告している。さらに、普段の生活や行事の写真を載せたホーム便りを毎月郵送している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヵ月に1度の運営推進委員会、年に2回の家族会で意見交換の場を設けている。その他行事、面会で来所された時、要望を聴き、早期に検討し、対応している。 (外部評価) 運営推進会議や家族会で意見を伝えてもらう機会を設けている。玄関に意見箱を置き、重要事項説明書に苦情の窓口を明記している。面会時には声をかけ、意見や要望を聞くように努めており、すぐ対応できる事柄には即対応している。また、介護計画の見直しにも役立てている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃の業務で気づいた事等を、意見ノートに記入しそれをカンファレンスの時、スタッフで話し合い、より良い方法を模索している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 新入居者の状態により、例えば環境に慣れず、不穏な言動があり落ち着かない場合は、スタッフが居残り対応している。 外食、外出、行事等で人手が必要な時は、職員の配置をしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員のフロー移動は、1度に複数人の交代はしないようにして、馴染みの関係がとぎれないように留意している。利用者の心理的なことも考慮しながら、職員の配置をしている。 (外部評価) ユニットごとの外出の際に外出しない利用者がホームに残って別ユニットで過ごすこともあり、顔見知りの職員がいることが安心に繋がるため、半期に一度、少しずつ異動させている。異動による利用者へのダメージを考慮し、人数等に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 雇用の初め、1週間程度、研修期間にあてている。当ホームのマニュアルを説明しながら、実際の業務の実施をしている。外部研修への参加については、順番に参加できるよう留意している。又資格条件が整えば、なるべく資格が取得できるよう講習会等にも出席できるようしている。 (外部評価) 2か月に1回、外部から講師を招き、薬、接遇等の研修を受けている。介護福祉士等の資格取得のための勉強会も開いている。県グループホーム連絡協議会や県社会福祉協議会主催の研修にも順番で参加し、ホームで報告会を開き、他の職員に伝達講習している。研修参加のための費用の援助もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域、近所のグループホームで相互評価に参画し交流を図っている。1日お互いのホームで研修する事で、良いと思われることをとりいれている。 (外部評価) 県グループホーム連絡協議会主催の相互評価に参加している。他のグループホームで実践していたカレンダー作りを取り入れ、利用者一人ひとりが自分らしく作ったカレンダーを居室前に飾っている。また、校区のグループホーム連絡会に出席し、地域の同業者との繋がりもでき、情報交換等している。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) その人のライフスタイルに合わせた、休み希望を聞き入れてもらっている。 運営者はスタッフが常に働きやすい職場になるよう一人ひとりの相談にのっている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 社協、介護保険課、グループホーム協会主催の研修には、希望者を優先に参加できるように、勤務体制を調整している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前の、相談時から利用者本人、家族の不安や、要望をしっかりと聞き取り、どのように対応すると満足していただけるか十分に検討している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前の、相談時から、家族の不安や、要望をしっかりと聞き取り、どのように対応すると満足していただけるか十分に検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人又は家族のニーズをしっかりと傾聴し、家族の介護負担も含めた、サービス支援を助言したり、又、在宅や施設はの転居の必要性も検討している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居希望があったら、家族と一緒に見学に来所してもらい、2～3回ホームにこられ、おやつや食事を食べて頂き、少しずつ慣れていただくケースもある。 (外部評価) 入居希望の本人と家族が見学に来て、ホームの様子を把握し、ホーム側からも本人の自宅を訪問し、暮らしぶりや生活環境を把握し、希望を聞いている。入居後は、家族にも協力を得て度々来てもらっている。帰宅願望のある方と一緒に外に出て散歩し、「ただいま」と声をかけると、ホーム内の人が「おかえり」と温かく迎えている。	※	10月にオープンしたデイサービスを、ホームの待機者も利用している。ホームとデイサービスの連携により、待機者が入居までに職員や他の利用者及びホームの雰囲気に慣れ、スムーズにサービスが開始されることを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 食事の献立を一緒に考えたり、調理方法を教えてもらったりすることもある。 行事については、お正月のしめ縄の作り方を教わったりしている。童謡、唱歌を教わりながら、一緒に歌ったりしている。 (外部評価) 利用者には全員役割があり、職員は手伝ってもらっている間のコミュニケーションを大切にしている。そして、手伝いに対し「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えている。利用者が孫の写真を見ながら嬉しそうに話をする時、職員も同じように嬉しくなるという話を聞いた。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 常に利用者同士の言動に気を配り、関係を把握している。又、トラブルは未然に防ぐ事が出来るよう努力している。 もし、トラブル時は、スタッフが間に入り、皆さんが気持ち良く過ごせるよう留意している。レク、体操等と一緒にする事で皆さん一緒に楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族には、何時でも来訪してもらえるよう、早朝の面会もオープンにしている。宿泊設備も整っており、遠方からの面会にも対応している。面会にきた家族の事を忘れた場面が見られたら、助言する事で思い出することができることで関係作りが保つことをはかっている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 買物、外出等で利用者の家の近くを通ったり、思い出の場所を選んで出かける。古い写真を一緒に見たり、若い時の話を聴くようにしている。入居時は在宅で使用していた馴染み家具、日用品を持参してもらっている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 常に利用者同士の言動に気を配り、関係を把握している。トラブルは未然に防ぐ事が出来るよう努力している。もしトラブル時は、スタッフが間に入り、皆さんが気持ち良く過ごせるよう留意している。レク、体操等を一緒にする事で皆さん一緒に楽しんでいる。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所された方にも、運動会等の行事への参加を案内し遊びに来てもらっている。 家族の都合で在宅で一人になる時は、来所してもらいおやつや、食事を一緒に食べてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりに要望、希望を聞き、本人にとって強制にならないような生活リズムで生きがいのある生活できるように努めている。 (外部評価) 職員は利用者と接する時間を多くもち、会話しながら手伝ってもらおう等工夫して、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。希望の表出の困難な方に対しては、本人の立場で考慮している。把握した内容は申し送りノートや個人記録に記入し、職員間で共有している。さらに各利用者の担当者が毎月アセスメントシートに蓄積している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居される前に、住み慣れた家を訪問してご家族も交えて生活歴等を聞くようにしている。そして入居される際には、今まで使っていた家具やお仏壇等、馴染みのある物を一緒に持ってきていただき、今までと変わりにくく過ごしていただけるような生活環境づくりに努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 毎日決まった時間にバイタル測定をし、いつもと変わったことが見られるときには、看護師に報告し、協力医に連絡する事で指示をうけている。日常生活の中で、出来る事、出来ない事を見極めて、できる事を役割として支援している。生活記録の中で日々の過ごし方を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 月2回の会議に、スタッフが1階、2階に分かれケアカンファレンスを3ヵ月に1度話し合いをしながら介護計画の見直ししている。モニタリングし、本人、家族の意向を反映しながら次のプランに繋げている。 <hr/> (外部評価) 日頃から本人や家族の思いや意向の把握に努め、希望を取り入れた介護計画を作成している。毎月モニタリングし、月2回のカンファレンスで職員全員で意見を出し合っている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 定期的には3ヵ月に1度の見直しをしている。しかし、状態の変化が著明な時や、入院後の日常生活動作の相違が生じた時は、プランの見直しをし、本人、家族の同意を得ている。 <hr/> (外部評価) 毎月のモニタリングによるアセスメントを基に、3か月に1回定期的に介護計画を見直ししている。病気による身体機能の変化等、状態変化が生じた場合はその都度見直ししている。その際、本人や家族に説明し、同意を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の対応の様子(対応困難時など)、状態の変化があった時は必ず詳細に記録するようにしている。介護計画に対する記録を心掛けるようにしている。又、気づきやアセスメントも記録に残すようにしている。記録をもとに共有し、実践に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 面会時間は早朝や遅い時間にも対応している。外出、外泊についても家族や本人の都合に合わせて、いつでも良い時間にも関わっている。 本人がドライブや買物に行きたいと希望される時は、なるべく意思を尊重している。 (外部評価) 医療連携体制を活かし、月1回往診が受けられる体制を作っている。入院時も早期退院の支援をしており、家族の都合が悪い時には通院介助もしている。元利用者や近くの認知症の高齢者に自由に遊びに来てもらっている。地域のニーズに応じてデイサービスを開始している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域の中学生の職場体験、専門学生のボランティアの受入をしている。 本人の必要性の訴えがないため支援には至っていない。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 当ホームで医療面で対応が困難になった方を紹介したり、認知面で在宅生活が困難なケースをケアマネジャーをどうして紹介されたりしている。在宅に復帰する時などは、居宅支援事業所に繋いでいる。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域で生活している高齢者の情報の交換をしながら、必要があれば、総合的なマネジメントの相談を考えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、家族の許可を得て、協力病院から往診（内科、皮膚科、歯科）にきてもらっている。他科への受診は必要に応じてスタッフと一緒に通院することもある。 <hr/> (外部評価) 本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、入居前からのかかりつけ医の方もいれば、ホームの協力医がかかりつけ医の方もいる。通院介助は家族と本人のコミュニケーションの場にもなるため、基本的に家族にお願いしているが、家族の都合で職員が代行する場合もある。協力医の往診が週2回ある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症の理解が十分にできている医療機関に受診し、周辺症状が悪化した場合にも助言や内服薬の処方をしてもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ホームに勤務する看護職員を含めて、検討し必要時には、症状に合った医療機関の受診につないでいることもある。 排便状態を観察するなどして緩下剤の服用に対して、適切な量をけん討している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 協力病院、又は救急病院に入院時には、密に連絡を取り、病状の経過、退院の時期を相談しながら、出来るだけ早く再入居できるよう対応している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) グループホームでの対応が困難になった場合、早期に家族と話し合いを持ち本人にとって安心して過ごせる施設に、移行していただくよう話し合いをしている。 <hr/> (外部評価) 入居時に重度化や終末期のあり方について本人や家族と話し合い、方針を決めている。重度化に伴い、話し合いを重ね、意向の確認をしている。ホームでの生活を望む方にはできる限りホームで支援している。ホームでの対応が困難な医療行為を要する場合は、利用者のために最善の方法を検討し、病院や老人保健施設への退居の支援もしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 終末期を当ホームで迎えるか、又は他施設、病院での生活に切り替えるかは、ご家族とご本人（意思疎通可能な場合）から要望を聞いている。医療依存度が高くなった場合はかかりつけ医と十分に連携を取り受け入れている。 常に、『グループホームとしての終末期の支援とは』との課題の検討を考えることに努めている。	※	経管栄養（胃瘻部より）は、必要があれば受け入れている。 疼痛緩和ケアが必要な場合は受け入れたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) サマリーを速やかに作成して渡す、行って状態を直接伝える等、次の住居に行く時は情報提供を十分出来るようにしている。 住み替え後も、関係者で情報交換してご本人がスムーズに住み慣れるように努めている。	※	住み替え後も、慣れるまでは定期的に情報交換するなど取り組んで行きたい。
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者の記録に、他の利用者の事を書く時はイニシアルで対応している。言葉かけは、尊敬の念を持って声をかけるように努めている。 (外部評価) ホームでは理念の2つめの柱に挙げ、熱心に取り組んでいる。利用者が穏やかに過ごせるよう、命令や強制になったり、禁止したりしないような声かけについてカンファレンス時に議題に取り上げ、職員間で意識統一している。ホームページやホーム便りに利用者の写真を掲載することは、全ての利用者の家族から同意を得ている。	※ ※	カンファレンスで、プライドを傷つけない言葉掛けやプライバシーの取り扱いについて定期的に周知を努めたい。 今後も定期的にプライドを損ねない言葉かけ等の話し合いをして、プライバシーの確保を徹底していきたいと考えているため、今後の取り組みに期待する。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 更衣であれば、自分で用意して着ることが出来ない方には、何点か洋服を用意して「どちらにしますか？」と選んで頂いている。お茶の時間、外食時にも希望を聞き、好みのものを選べるようにしている。 外出・外食は、どうしても行きたくないと訴える時は「いいですよ」と希望を受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 電話、外出、買物など一人ひとりの希望を大切に、それに沿えるよう努力している。 おやつ、入浴、更衣、昼寝等その人のペースを大切にしている。 (外部評価) 昼食前にベランダでタバコを吸いながら景色を楽しむ、面会に来た家族と話す、ソファに座って話す、昼食後早速食器洗いを、ゆっくり食事する、テレビを観る、居室で休む、など一人ひとりが思い思いの過ごし方をしている。ホームが日頃から利用者の希望に沿う支援に尽力している様子がうかがえる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 朝の更衣時、入浴時、外出時、汚れた時など気をつけてその人らしい身だしなみができるよう支援している。 近所の美容院が毎月1回訪問している。希望者にカットを提供している。又、カラーパーマ等したい方については、美容院にお連れしている。 馴染みの理容・美容店に行きたい方にはその支援をしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日、利用者の方と一緒にコミュニケーションをとりながら食事作りをし、食べたい物や好みも大切に楽しく美味しく食事ができるよう支援している。 片付けは、利用者の方も進んでしている。洗うことが難しい方も座ってトレー拭き等、できるお手伝いをしている。 (外部評価) 毎日利用者と共に買い物に出かけ、利用者の食べたいものを献立に取り入れている。魚を魚屋から購入するなど、新鮮な食材を使い、食事の準備や後片付けを利用者と職員と一緒にしている。また、お粥、パン、ご飯と希望に合う主食を提供している。外食や喫茶店へ出かけることも多く、楽しみの一つとなっている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物は、本人の好みに沿える様にしている。 お酒を飲みたい方には、健康状態を配慮しながら希望通り支援している。 タバコは、詰所で管理はしているが、本人が自由に取って喫煙場所にいけるよう支援している。	※	タバコの本数が多くなるようなら、さりげなく声かけをしている。 外食時にもビール等を注文されることもあるが、少しなら見守っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 紙パンツを使用していた方の排泄パターンや状況を見て、布パンツに切り替えられそうな方は布パンツに変えることができた。 布パンツだけでは不安な方にはパットを使っていたが、出来るだけ布パンツで過ごせるよう支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの入浴希望時間を聞くようにしている。毎日入浴される方、一日おきの方等ニーズに合わせている。365日入浴の支援をしている。 肌の保湿保温効果のある入浴剤を入れて、入浴後も気持ちよく過ごせるよう支援している。 (外部評価) 入浴回数や時間は一人ひとりのこれまでの生活習慣や希望に合わせているため、毎日入浴する人もいれば、1日おきの人、午前中に入る人、夕方の人と様々である。感染症等で湯船に浸かれない時も、シャワー浴の設備がある。	※	なるべく希望に沿った通りに入浴していただく。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 昼食後には、居室で横になれるよう支援している。また、お手伝いを頑張っている際には「少し休みませんか？」と声をかけするようにしている。 入居者によっては、眠剤を多量に要求する方もいるので、その際には擬似薬で「これで眠れますよ」と安心できる声かけをするようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) ご家族、ご本人にアセスメントし、その方の生活歴を把握して、介護計画を立てている。 介護計画の中に、役割や趣味などを取り入れて、楽しみが実行できるように支援している。又、全体的には季節の行事を取り入れて支援している。 (外部評価) 掃除の場面では、車いすの方には手摺りの拭き掃除、杖の必要な方には洗面所の掃除をしてもらおう等、利用者のできることで、できないことを職員が見極め、できることをしてもらい、お礼を言うようにしている。また、梅干作り等利用者の経験を活かせる場面を作っている。編み物、習字、俳句等の趣味、地域行事への参加、外食、外出等の楽しみも多い。	※	レクリエーションのレパトリーを増やして、今より内容のあるレクリエーションをしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小額のお金を管理していただき、買物に行ったり、ヤクルト来たら各自で購入できるようにするなど、お金を使う楽しさを味わえるように努めている。	※	今は限られた人なので、お金を使える方を増やしていきたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) お正月以外は毎日、買物の機会を作っている。又それ以外にも一人ひとりの希望に沿って、買物、ドライブ、散歩等、訴えのあった都度、戸外に出られるように努めている。 (外部評価) 毎日食事の買い物に利用者とは出かけている。ホームの前の道は、みかんや柿山が広がる細い一本道で、のどかな風景を楽しみながらの散歩コースとなっている。また、希望に応じて買い物やドライブにも出かけている。広い庭に置かれたベンチやブランコも活用している。行事による外出も多い。	※	訴えのある方にだけの対応になりがちなので、普段より利用者の方に話を聞き、行きたい所等があれば希望が叶えられるようにしたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族同伴での遠距離バス旅行、デパートやレストランでの外食、美術館等さまざまな場所に出掛けられる機会を作っている。	※	外出可能な（スムーズにいける）所の下見をしてレパトリーを増やしたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家庭の事情で出来ない場合もあるが、訴えがあれば電話をかけられるように支援をしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問時間の規定はなく、いつでも、どなたでも訪問できるようにしている。 お茶を一緒に飲んでいただいたり、レクリエーションに参加していただいたり、他の入居者との交流も自然な流れでできている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 介護保険法指定基準の資料を基に、カンファレンスで学習した。どんなことが身体拘束になるのか具体的に意見交換等もしながら全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	※	定期的に職員同士が身体拘束についての話し合いを持てるようにする。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外玄関には、用心の為に鍵をかけているが入居者の方全員に鍵の掛け方を教えている。入居者の方が外に出たい時には、自由に鍵を開けて出れるようにしている。中庭からも自由に出入りしている。居室には鍵を付けていない。 (外部評価) 外玄関は防犯のため施錠しているが、利用者には鍵の掛け方を伝えており、自由に出入りできる。利用者の外出傾向を把握し、内玄関のセンサーと、鍵を開ける音で外出を察知し、見守りにより安全に留意している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) スタッフは、常時一人はフロアーに居るようにしている、スタッフ同士声掛けして行動している。個室に入室する時は必ずノックして、声かけしている。	※	夜間ローカの明かりをつけている。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 洗剤類、消毒類等は一箇所にまとめ保管しているが、鍵はかけていない、包丁や台所洗剤等も自然な形で収納している。鍵は掛けていないが、スタッフが見守りする事で安全に過ごしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハットや、事故報告書を活用し、小さな事でも必ず報告、カンファ時に話し合っどどのようにして行くか、気を付けて行くか検討し、同じ事が起きないように努めている。火災については、年2回入居者、スタッフ全員で防火訓練、スタッフは定期的に防火訓練を行っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 地域で実施している救命訓練にスタッフが参加し、人工呼吸法、AD使用方法を身につけている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練、初期消火、通報訓練を消防署と連携をとりながら、年に1～2回実施、又ホーム独自でも訓練を近所の住民に協力依頼しながら取り組んでいる。 (外部評価) 年2回消防署の指導のもと避難訓練を実施しており、職員は各ユニットにあるマニュアルに沿って行動できるようにしている。また、町内の自主防災訓練にも参加している。ホーム独自でも、夜間を想定して電話連絡がスムーズにできるよう訓練している。避難場所の中学校へは、日常の散歩コースとなっているため利用者も慣れている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 身体の状況や、認知レベルの低下により状態が変わった時や、熱が出た時等も必ず連絡を入れて報告している。状況が変わった時には、一緒に話し合いどのような方向で生活して頂きたいかを聞き、意向もお聞きして本人さんが一番良い状態で生活が送れるように取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 1日1度はバイタルチェックをし、血圧等の異常データの把握をしている。体熱感が観察された場合は検温をし、クーリングで様子を見ることもある。受診の必要があるかどうかを看護職が見極めをしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の薬効や副作用の記録をいつでも見て確認できるようにしている。服薬の確認は必ずしている。血糖値の測定をし、低目の時は指示どおり、薬を中止する時もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便の確認をし3~4日なければ緩下剤を服用する場合もある便秘気味の人にはヨーグルトを提供したり、水分補給にも留意している。	※	繊維質の物を日々のメニューに取り入れたり、便秘改善の体操を日常的に取り入れるなど、場当たりの対応でなく普段の生活から便秘を予防する働きかけを行いたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔の徹底と夜間の義歯洗浄の推進、歯科医師及び歯科衛生士による歯科受診、口腔指導、メンテナンスをしている。	※	歯茎のマッサージ等口内環境の一步進んだ改善に取り組んでいきたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量のチェックし管理している。青魚が嫌いな方には、食べれる物を作り提供している。水分量の少ない方には毎回味が変わったジュース等を飲んでもらい必要量の確保をしている。	※	好き嫌いの激しい方の場合は、食事量をおかず別に分けてチェックして本人の嗜好を正確に把握する。
			(外部評価) 食品数を30品目近くになるようにし、糖尿病の方へもカロリー摂取に配慮している。食事量、水分量を記録し、一日に必要な量を確保できるよう支援している。ホームでは家庭的な雰囲気を大切にしているため、家庭と同じような食事の提供をしている。そのため、献立は一食ごとに立てている。	※	ホームの栄養士が一日全体を通しての栄養摂取量やバランスを定期的に専門的な目で確認することが望ましい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 入居者、スタッフは外出から帰った時には必ず手洗い・うがいの励行をしている。食事前にも必ず手洗いの声掛けをして日頃から感染予防に努めている。又インフルエンザの予防接種を入居者、スタッフもほぼ全員実施している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食器や調理器具は洗った後、乾燥機使用し綺麗に乾燥してから終わっている。一日使ったまな板や、布巾・包丁はハイターにつけている。食材は毎日買出しに行き新鮮な物を提供できるようにしている。賞味期限の切れている物については、処分している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関は、スロープにして手すりも付けている。今年は認知症デイの開設もあり、外回りの雰囲気を外からも入りやすく入居者の方にもくつろげるよう花や木を沢山植え池もあり、めだかや、金魚を観て楽しめるか環境作りをしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関や、食堂には庭に咲いている花を摘んで生けている。日差しがきつい時にはレースのカーテンを引き入居者様の不快にならないように配慮している。浴室には小窓にして外からは見えない工夫をしている。 (外部評価) 玄関は、広々としており、花や日本人形を飾り、いすを置いて休めるようにしている。廊下は広く、車いすも通りやすい。布で作ったカレンダーが食堂を明るく雰囲気にしており、居間はソファでゆったりくつろげるようにしている。トイレの中に扉で仕切ったシャワー室があり、必要のない時には見えないようにできるため感じがよい。	※	芳香剤を置いたり、御香を取り入れて行ったらどうかと検討していきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人掛けのソファ、三人掛けのソファを置いている。玄関を入った所にも一人掛け椅子を置いたり、二階の踊場にはテーブルと椅子を置いて何時でも座れる場所を作っている、タバコを吸われる方もゆっくりと過ごす事ができるように、椅子を置いている。	※	建て物の廻りなども、腰掛られる物を置いて行きたいと考えている。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室の家具は、自宅で使用された馴染みのものを持って来て頂き、本人が過ごされていた時と同じような空間作りをしている。タンスや椅子も使って居た物、使い慣れたものを置いている。お仏壇も持って来て頂き手を合わす事で安心して過ごせる空間作りをしている。 (外部評価) 使い慣れた筆筒や机・いすを持ち込み、その人らしい居室になっている。編み物をする方は毛糸で編んだ花や座布団を置いている。入居前布団で寝ていた方はフロアに畳を敷いて休んでいる。仏壇を置いている方はきれいにお供えもしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 冬場は床暖房の設備により暖かく、夏期はなるべく窓を開ける事で換気と、室内温度の調整気温が高い時には、空調を28度に設定し外気温との差を少なくしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ホーム全体がバリアフリーになっており、車椅子使用の方もトイレ・風呂場への移動も自由に行く事ができる。手すりを利用し立ち上がり訓練をし筋力アップに繋がっている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室のドアには、本人様の名前の表札を掲げトイレにはトイレ(御手洗)プレート、風呂場にはお風呂のプレートや、(湯)のれんを吊り分り易くしている。ローカ、台所、居間は一目で全体が見渡せるよう配慮している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物のすぐ側にはみかん畑があり、中庭は芝生を敷き詰めパーゴラや二人乗りのブランコもあり楽しんで頂ける空間作りをしている。木や草花も多く庭の花を摘んで生けてもらったりしている。2階のベランダの目前にみかん畑が見えるように工夫して開放感がある。	※	2Fのベランダにもガーデニングができるようにして、楽しむ事ができるように取り組んで行きたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	タバコを吸われる方、毎朝朝食は食パンを食べられる方、夜は焼酎等具体的に意向を掴んでいる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	のんびり一緒に洗濯物干したり、数名の入居者と集まってお茶を飲みながら食事のメニューを決めたりしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	レクリエーション、外出、行事の場合でも、その都度本人に参加の意向を確認した上で無理のないようお誘いしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	掃除、食事作り、洗濯干し・たたみ等や散歩時その方の出来る事をして頂いた時、生き生きとした表情や、笑顔がみられる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人で玄関から出られ、ホームの近所を散歩されたり、ドライブに行きたい、買物に行きたいとの要望をされた時は、その都度出かけている。その時にお聞きして他の入居者の方もお誘いして出かけている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	定期的な往診、毎朝のバイタルチェックをしている、熱が37℃以上の時には再度測定している。血圧では上が140以上の時にも再度測定して、日頃と違う時や変わった事がある時には、すぐに看護師に連絡指示をもらう。看護師が勤務でない時には往診に来て頂いてる病院に連絡看護師、Drの指示をもらう。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	朝は自分で起きられる方以外は、7時に声掛けをしているが眠たいと言われる方や声を掛けて起きられない方はしばらく休んで頂いている。夜も就寝時間は決まっていないが9時までには休まれている。眠れないと起きて来られる方にはリビングでテレビを見て頂いたり、温かい飲み物を飲んで頂き安心して暮らす事が出来るようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	行事や、面会時にホームでの生活や状況等報告している。更新時には家族様の意向、本人様にどのように過ごして欲しいか聞き、ケアプランに反映させている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	地域の方が来られたり、近くの方で散歩の途中一度ホームに寄られてから、数日に一回ホームに寄りお茶を飲んで入居者の方と話をして帰る方がいる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議を2ヶ月に1度開催して、毎回地域の方が数名参加して頂きスタッフも順番に出席して地域の方と顔なじみになって、近所の方に声をかけられるようになり近所の方からお野菜を頂いたりしている。回覧板も必ずまわしていただいている。月に一度地域の神社の掃除に出かけ、地域に貢献できるような場を作り地域の方と馴染めるようにしている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎朝、日勤帯の人が順番で朝礼に出て、理念の唱和、連絡事項、職場の教養・感想、挨拶リーダーを決め笑顔で挨拶をして、一日のスタートを切っている。業務で困ったことや、対応などで考え過ぎて負担を抱えているスタッフがいる時には、時間外に話を十分に聞き、ストレス等をためないように話を聴く体制を取っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	行事や、外出、レク、入浴等は必ず本人さんの希望や自己決定が出来るように支援している。手伝い等も声かけして出来る事をして頂いている、本人の意思を確認しながら無理のないようにして頂いている。買物や散歩も毎日順番で行ける体制を作っている。ドライブに行きたいと言われる方もその都度、車の融通が利く限り希望に添えている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会に来られた時や、家族会に来られた時に話をして希望や、意向や気づいた事がある時にはお聞きして、介護計画書に記録して次のケアプランに反映させている。状態が変わった時には必ず報告してどのように対応して行くか話し合っている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)